

カブトムシ大きく育て

丸亀・京大生らが竹チップ 幼虫大量に

丸亀市沖の手島で、京大生らが島の活性化プロジェクトの一環として、伐採した竹をチップにして山に置いていたところ、カブトムシの幼虫が大量に発生し、島を訪れる子供たちを喜ばせている。

農作業などを通し、地域とふれあう京大サークル「農業交流ネットワーク」は、丸亀市のNPO「四国夢中人」代表、尾崎美恵さん(64)の紹介で昨年、手島を訪問。島の中心部にある安養寺の裏山で竹やぶの手入れのため、約400本を伐採した。

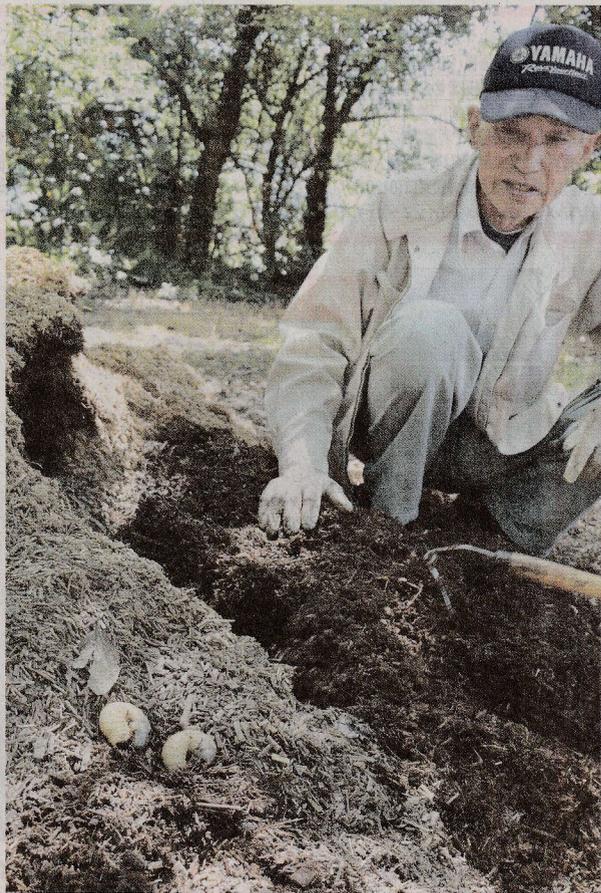
肥料になればと細かいチップに加工し、数か所に盛っておくと、カブトムシが産卵し、幼虫が生まれた。手で少し掘ればす

活性計画 子供ら大喜び

ぐに見つかるほどの数で、大きいものは体長約10センチある。自治会長の藤原正さん(80)は「暖かさや湿度がちょうどよかったのでしよう」と話し、大型連休中、島を訪れた子供たちが幼虫を手にして楽しんでいた。

人口約20人の島で、藤原会長は「これまでも昆虫採集で島を訪れる家族がいた。カブトの成長を楽しみに来てくれる子供が増えれば」と期待し、昨年に竹の伐採をした尾崎純さん(25)は「子供たちが来てくれる島になる手伝いができた」と喜んでい

る。藤原会長らは、チップの山に古くなった漁の網をかぶせて幼虫を保護し島を訪れる子供たちに触れあってもらおうという。



カブトムシの幼虫を掘り出す藤原会長(丸亀市の手島で)